



学会ホームページ <http://jasce.jp>

080号(2025年4月30日)

目次

第21回大会の概要
会員情報の変更届
年会費納入のお願い
『協同と教育』第20号の発行について
『協同と教育』のJ-STAGEへの公開について
『協同と教育』『協同教育実践論文集』の投稿方法の変更について
ワークショップ開催報告@ベリック北海道
ワークショップ開催報告@ベリック東京
ワークショップ開催報告@アドバンス東京
第13回オンライン講座『日本の協同学習』を開催しました
オンライン講座『日本の協同学習』は全ての章を終えました
各地の研究会・勉強会
出版情報

第21回大会の概要

2025年度の日本協同教育学会第21回大会は、「懐深いやんばるにおける対話と共鳴」をテーマに、2025年9月13日(土)～14日(日)、名桜大学(沖縄県名護市)で開催いたします。

大会では、研究発表(口頭発表・ポスター発表)・ラウンドテーブル・ワークショップ等を予定していま

す。教育場面のみならず、さまざまな場面や状況における協同実践・研究を共有していただけますように、楽しみにしております。多くのご投稿お待ちしております!

大会1日目は本学副学長の木村堅一先生をお招きして、「学びを共に創る：学生、教員、ピア・サポートが育む協同教育」をテーマに記念講演を開催いたします。先生は、先輩・後輩の相互支援の活動団体「welcome navigation(通称 ウェルナビ)」を学生と共に立ち上げ、学生との大学づくりに取り組み続けています。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

懐深いやんばるの地に包まれながら、多様な参加者が共鳴しあい、楽しみながら対話するなかで、未来の教育(学び合う場)を創造・想像するような素敵大会を一緒につくっていただけますように、ぜひぜひお誘い合わせてご参加ください。両手を広げてお待ちしております!

なお、名桜大学近隣は観光スポットが多く、かつ7月末に大規模なテーマパークがオープン予定です。大会日程は、観光シーズン中の週末にあたるため、観光需要の高まりによってホテルやレンタカー等の予約が難しいことが予想されます。どうぞお早めにホテルやレンタカーのご予約をご検討ください。名護市内の移動は公共交通機関もありますが、利便性は高くありません。レンタ

カーかタクシーをお勧めします。

1. 大会テーマ
「懐深いやんばるにおける対話と共鳴」

2. 大会日程
1日目：2025年9月13日(土)
9:00～16:30(受付は8:30開始)
2日目：2025年9月14日(日)
9:30～15:30

3. 会場
名桜大学 学生会館SAKURAUUM
(沖縄県名護市為又1220-1)

4. 会場までのアクセス
【那覇空港から名護市内まで：高速バス利用の場合】

那覇空港到着ロビーを出て左手のバス乗り場にお進みください。

①高速バス(111番・117番)
終点の名護バスターミナルまで、所要時間は約1時間45分です。

②やんばる急行バス(国内線ターミナル1階外の2番乗り場)

詳細はこちら→<https://yanbaru-expressbus.com>

※ご利用にあたっては、各バスの公式サイト等で最新情報をご確認ください。

【名護市内から名桜大学まで】

※夏期休業中につき、学生送迎バスは運行していません。

①名護市内から会場(大学)までの移動は、レンタカーかタクシーが便利です。タクシー利用の場合、名護バスターミナルもしくは名護市役所前からですと、所要時間10～15

JASCE

分で、料金は1,000円程度です。

②レンタカーやタクシー利用が困難な方には、大会初日と2日目の朝、下記のスケジュールで名桜大学までのマイクロバス（両日とも各1便・定員25名・無料）を運行します。完全事前予約制です。大会参加申込フォームに必要事項を記入してお申し込みください。

【9月13日(土)】

7:58発 ルートイン名護(裏通り)→

8:08発 名護市民会館側バス停→

8:13発 ゆがふいん→

8:20発 居酒屋 たけちゃん側：旧バス停(スーパーホテル近く)→

8:30着 名桜大学

【9月14日(日)】

8:28発 ルートイン名護(裏通り)→

8:38発 名護市民会館側バス停→

8:43発 ゆがふいん→

8:50発 居酒屋 たけちゃん側：旧バス停(スーパーホテル近く)→

9:00着 名桜大学

※定員に達し次第、申込を打ち切ります。

※予約された方は必ずご利用ください。また予約のない方はご利用頂けません。

※バス運行に関するお問い合わせは、北部観光(0980-54-5888)まで。

5. 発表形式

口頭発表(24分) 内訳：発表15分、質疑応答6分、交代3分

ポスター発表(セッション時間 30分)

ラウンドテーブル(120分)

ワークショップ(120分)

6. 発表申込募集期間および発表要旨原稿受付期間

開始日 2025年5月1日(木)

締切日 2025年6月30日(月)

※大会で発表できるのは、令和7(2025)年度までの会費完納者に限ります。

※早期参加申込と参加費の支払いを完了する必要があります。

7. 参加申込と参加費支払い期間

【早期参加申込】2025年5月1日(木)～6月30日(月)※会員のみ

【事前参加申込】2025年7月1日(火)～9月5日(金)

【当日参加申込】2025年9月13日(土)～9月14日(日)

※早期参加と事前参加は振込完了をもって申し込み完了となります。

※発表・企画代表者および共同発表・企画者の皆さまは、必ず早期または事前参加申し込みをおこなってください。当日の受付を円滑に運ぶために、早期参加申し込みと事前参加申し込みでのお支払いにご協力ください。

※大会参加費とその振込口座については5月1日より学会ホームページで別途お知らせします。(年会費の振込口座とは異なります。)

8. 懇親会～1日目の夜は特別なひとときを～

学会の1日目(9/13)終了後、参加者同士の交流・情報交換を深める「参画型懇親会♪」を名護市内の「ホテルゆがふいんおきなわ」2階で開催します!

詳細については学会ホームページで別途お知らせします。

9. 第21回大会に関する問合せ先

日本協同教育学会第21回大会実行委員会

〒905-8585 沖縄県名護市為又1220-1 名桜大学 平上久美子 研究室内

E-mail: taikai@jasce.jp

お問い合わせはE-mailでお願い致します。件名に「日本協同教育学会第21回大会」の文言を入れてください。

第21回大会実行委員長 平上久美子

会員情報の変更届

年度がわりの異動や転居などともなっており、所属・住所・メールアドレス等の変更があった場合、すみやかに会員情報変更をお願いします。届出は学会ホームページの「会員情報変更フォーム」から随時可能です。<https://jasce.jp/php/1044form.php>

年会費納入のお願い

本年度の年会費5,000円の納入をお願いいたします。以下の口座に振り込んでください。未納の場合、学会細則第3条 (<https://jasce.jp/1042saisoku.php>) により会員資格を失うことがあります。

◇銀行振込の場合

金融機関名 ゆうちょ銀行

支店 ○一九

口座番号 (当座) 0315442

名義 日本協同教育学会

◇郵便局で「振込取扱票」をお使いの場合

口座記号・番号 00100-8-315442

加入者名 日本協同教育学会

『協同と教育』第20号の発行について

2025年3月に『協同と教育』第20号が発行されました。今号では名誉会員の伏野久美子先生の結風から始まり、研究論文1編、実践研究論文2編ならびに書評2編が集録されております。ぜひともお目を通して

JASCE

ださい。

なお、前号より、前年度分までの年会費納入者にのみ発送されております。未発送の方には前年度2024年度分までの会費納入が確認され次第、順次発送いたしますので、よろしくお願いたします。

『協同と教育』のJ-STAGEへの公開について

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が運営する電子ジャーナルプラットフォームであるJ-STAGEに『協同と教育』掲載の論文が公開されるようになりました。下記のページがJ-STAGEでの『協同と教育』のトップページになっております。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kyodokyouiku/char/ja>

現在、第1巻から第19巻まで掲載されておりますのでぜひご覧ください。(なお、従来通り、協同教育学会のWebページにもこれまで発行された『協同と教育』が公開されております。こちらには論文以外の情報も掲載されております。)

『協同と教育』『協同教育実践論文集』の投稿方法の変更について

『協同と教育』『協同教育実践論文集』の投稿方法が変更となり、新規投稿はWebフォームからの投稿となります。これに伴い、『協同と教育』『協同教育実践論文集』の執筆・投稿規程も変更しております。投稿フォーム、執筆・投稿規程は<https://jasce.jp/1091format.php>にあります。

なお、『協同と教育』『協同教育実践論文集』ともに、投稿を随時受け付けています。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常

数ヶ月以上を要します。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

ワークショップ開催報告@ベーシック北海道

北海道では久方ぶりの開催となるJASCE主催のワークショップが、2024年11月30日(土)～12月1日(日)に開催されました。会場となった酪農学園大学は札幌市の東に隣接する江別市にあり、最寄りのJR大森(おおおさ)駅までは札幌駅から乗車16分ほどの場所にあります。講師を務められた和田珠実先生と石橋裕子先生の掛け合い漫才のような自己紹介から、和やかな雰囲気が始まりました。今回から開催に必要な最小参加者数に変更になり、9名の参加者(+マスターコース受講中の参観者2名)の小規模なワークショップではありましたが、その分参加者全員が交流を深めることが



できたと思います。また、談論風発たる場面もあり、参加者個々がそれぞれの立場で学びを深めることができ、充実したワークショップとなりました。

(運営 大和田秀一)

ワークショップ開催報告@ベーシック東京

3月22日(土)、23日(日)、和洋学園九段スカイビルをワークショップ会場として学会主催のワークショッ

プ(ベーシックコース)を開催しました。会場の九段スカイビルは、東京地下鉄、九段下駅から徒歩5分ほどのアクセスしやすい場所にありました。ご担当の講師は佐瀬竜一先生とスーパーバイザーの伏野久美子先生で、17名の受講者に加え、マスターコース受講後の参加観察として3名の方が参加されました。ご参加くださいました皆様に心より感謝申し上げます。



ワークショップは、佐瀬竜一先生の綿密な計画に基づいた展開と、それに呼応する受講生の活気が一体となった学びの場面が多くみられ、充実の2日間でした。

受講生からは「基礎から学べたことで、協同学習を授業にどう活かすか理解できた」「すでに協同学習を取り入れている先輩の授業(現場)と協同学習の技法(方法)が繋がった」「リピーターとして参加したが、講師によって進め方が異なる場面もあり、新たな発見があった」などの感想が挙げられました。

皆様のご協力のもと、無事に終えることができました。心より感謝申し上げます。

(運営 太田昌宏)

ワークショップ開催報告@アドバンス東京

3月8日・9日、創価大学にて日本協同教育学会主催の協同学習ワー

JASCE

クシヨップ<アドバンスコース>が開催されました。参加者は19名。小学校・高校・大学など多様な教育現場で日々実践に取り組む方々が集い、2日間にわたって深い学び合いが行われました。

初めて顔を合わせた参加者も多かったのですが、参加者同士はすぐに打ち解け、まるで以前から共に学んできたかのように、活発な意見交換や協同作業が展開されました。グループでの活動や対話を通じて、それぞれの経験や課題、実践の工夫を持ち寄りながら、互いに学び合う姿が印象的でした。

今回のアドバンスコースでは、協同学習を単なる技法ではなく、授業づくりや教育観の土台となる方法論として捉えることが重視されました。理論編では、協同学習が学習者の「自立」と「自律」を育む営みであることを改めて確認し、実践編では「雪玉転がし」「建設的討論法」などを実際に体験しながら、その背景にある考え方への理解を深めました。



参加者からは、「学習者自身が問いを立てる重要性を実感した」「体験を通じた理解が深まった」「一度では身につかないからこそ、繰り返し学びたい」といった声が寄せられました。また、「孤独を感じていた現場での協同学習の実践も、この場の仲間存在を思い出すことで、前を

向けそうだ」といった心強い感想も聞かれました。さらに、「講師から学ぶことも多かったが、他の参加者との対話からこそ多くの学びを得た」との声もあり、まさに“協同”を実感する場となりました。

この2日間で得た学びと出会いを、それぞれの教育現場での実践へとつなげ、協同の輪がさらに広がっていくことを期待しています。

(運営 添田百合子)

第13回オンライン講座『日本の協同学習』を開催しました

3月1日(土)に第13回「オンライン講座」を開催しました。参加者は会員14名と一般2名の16名でした。

今回は、『日本の協同学習』(日本協同教育学会編, ナカニシヤ出版)の「第10章 英語教育と協同学習」を執筆された名誉会員の伏野久美子先生を講師としてお招きしてご講演いただきました。まずテキストの前半部分(英語教育と協同学習の関係、学習者間の相互交流を促進する工夫)を丁寧に解説してくださいました。次に、伏野先生がご担当された大学における英語の協同学習実践についてご講話くださいました。英語学習を単なる教科学習とせず英語を道具として学生の力(人間力)を育成する学びにすること、そのためにどのような工夫をしているのかを知る機会となりました。参加者からは、「自分自身の学生時代にこのような英語教育があったなら…と後悔してしまいました。」「協同学習の概念と英語教育におけるその活用について学び、自身の専門分野においても導入できそうなことを多く発見できました。特に印象に残ったの

は、学び合いを通じて学生同士の関係性が深まり学習効果が向上するという点です。」「次年度の授業で早速取り入れていきたいと思います。特に、天邪鬼を使った話し合いや念入りに行うアイスブレイクの意義と手法はよくわかりました。」などの感想が寄せられました。

(研修委員会)

オンライン講座『日本の協同学習』は全ての章を終えました

オンライン講座『日本の協同学習』はCOVID-19の影響により、年次大会や各種ワークショップの開催が中止になる中で、オンラインでの研修機会を作って共に学ぼうと始まった企画です。学会設立15周年を記念して会員の皆さまに配本した『日本の協同学習』(2019, ナカニシヤ出版)をテキストとして、各章の執筆者の先生方を講師としてお招きし、ご講話とご講話に基づく参加者間の交流という形式で実施してまいりました。総358頁の書籍を、執筆者の先生方の講話を聞き、参加者とそのテキスト内容や講話について交流することは、一人で読んでいくよりも豊かな体験ができたと思います。各回の参加者のみなさんの感想にもそれが明確に表れていたように思います。

2021年6月26日の第1回から始まり、最終回の2025年3月1日の第13回まで実施できましたのは、ご講話いただいた先生方と300名近い参加者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

(研修委員会)

JASCE

各地の研究会・勉強会

(東京地域)

協同学習を用いた看護教育研究会
in Tokyo

◇3月15日(土)、東京たま未来メッセ(八王子)にて「協同学習を用いた看護教育研究会 in Tokyo」の第3回研究会を開催しました。参加者は、看護系教員に加え、教育に関心を持つ多様な領域の方々18名が集い、熱心な学びの時間を共にしました。

今回のテーマは、「協同が導く主体的な学び：教育現場に活かす授業デザインの工夫」です。前回に引き続き講師としてお招きした最首昌和先生(前・公立中学校教員)より、信頼関係に支えられた協同的な人間関係づくりと、主体的な trial and error を重ねながら学生の成長を支える授業の工夫について、講義とワークを通して学びました。加えて、関田一彦先生より、協同学習におけるグルーピングに関するミニレクチャーも行われ、協同学習の意義を改めて考える機会となりました。

当日は、事前アンケートで収集した「学生の主体性のばらつき」「グループワークに苦手意識を持つ学生への対応」「フリーライダーへの懸念」といった課題も共有しながら、参加者同士で意見を交わしました。初参加の方や他分野の教育関係者も含めたグルーピングによって、対話はより多角的かつ深まりのあるものとなりました。

終了後のアンケートでは、「教員自身がまず『やってみる』姿勢が大切であると実感した」「感謝を言葉にする環境が学生の挑戦を支えると分

かった」「フリーライダーの存在は特性でなく環境要因であるという気づきが大きかった」といった感想が寄せられ、教育観や授業設計への意識変化が見られました。

本研究会は、協同学習を軸に、現場に根ざした教育実践と教員同士の学び合いを促進する場です。今後も、参加者の声を反映しながら、共に学び、成長する場として発展させていきたいと考えています。

連絡先：代表 添田百合子(創価大学看護学部 yoeda@soka-u.jp)、副代表 武信真理子(杏林大学保健学部)

(愛知地域)

藤田医科大学看図アプローチ研究会

◇「ふじかん」第17回研究会(5機関連携研究会)報告

「ふじかん」は「藤田医科大学看図アプローチ研究会」の略称です。毎月1回、地道に研究会を重ね、17回目になりました。前回からICT企業の方々も参加されて5つの機関が連携した研究会になりました。

対面参加：藤田医科大学(8名)・テクノホライゾン(3名)。

オンライン参加：長崎県央看護学校(4名)・文京学院大学関連(3名)・愛知県立総合看護専門学校(2名)・テクノホライゾン(1名)。合計21名。

日時場所等：1月30日(木)対面：藤田医科大学+Zoom

★活動の様子★

アイスブレイクの後、「ものこと原理」に基づいてビジュアルテキスト(写真1)を読み解き、看図アプローチと看図作文を体験的に学びました。



写真1(ビジュアルテキスト)

(1)看図アプローチ体験学習
1)変換

オンライン参加者は、Zoomのチャットに見た「もの」を入力し、その後、対面参加の11名が追加で発言する形式で進めました。写真1を見ながら、5分間で50以上の「もの」が挙げられました。「ナンバープレートのない車」「枯れた雑草」「黒いケーブル」など、細部にまで目が向けられていました。オンライン参加者がチャットに入力し、対面参加者は自由に発言することで、全員が主体的に関わりました。

2)要素関連づけ

「キャリアバッグの上にカバンがある」「おじさんが歩いている」といった事実は、誰もがすぐに気づきます。一方で、「右脇に何かをかかえている」「若干、ズボンが大きい」「おじさんの前に誰かいるようだ」「お土産袋がくたびれている」といったことは、要素を関連づけて読むことで初めて気づく「こと」です。参加者全員が気づいたことを出し合い、言葉にすることで、新たな視点に目が向き、「これは何だろう?」「どういう状況なのか?」といった疑問が生まれてきました。そしてその疑問を解決しようとするディスカッションが活発に行われました。

JASCE

その結果、ビジュアルテキストの読み解きはさらに深まっていきました。

3)外挿

写真には直接写っていない背景を考え、多様な意見が出ました。移動に関する推測では、「これから旅に出るところで高速バス乗り場に向かっている」「東京で仕事を終え、仙台に帰る」などの意見が挙がりました。お土産の袋や服装の特徴、周囲の雰囲気といった要素を手がかりに推測を進めました。また、場所に関する推測では、「空港やレンタカー屋が近い」「車が多いので港や広い駐車場のような場所」といった意見が出ました。外挿を重ね、「トヨタのレンタカー屋ではないか」と気づいた人がいました。

このように、参加者は観察した要素を関連づけ、それぞれ異なる視点で推測を行いました。その結果、多様な可能性が広がり、写真から得られる情報を超え、より深い読み解きが可能となりました。

(2)看図作文体験学習

5つのグループに分かれて取り組みました。まず、個人で以下の4つの視点からエピソードを考え、それをもとにグループで1つの作文を作成しました。

- ①この人は、ここに到着する前にどんな経験をしているか。
- ②この後、この人は車でどこを訪れるか。
- ③訪れた場所で何をするか。
- ④そこでどんなことに喜びを感じるか。

看図作文の活動では、参加者が看図アプローチで読み解いた情報をもとに、創造的なエピソードを作るプロセスを体験しました。看図作文



は、事実をもとに、論理的に思考(外挿)することが求められます。この活動は、看図アプローチ・看図作文を実践的に学び、論理的かつ創造的に思考する契機となりました。

(3)全体振り返り

研究会の最後に、参加者の気持ちを「きゅうちゃん」で表現し、互いにコンプリメントを送り合いました。「仲間と一緒に頑張った充実感!」「発想の転換に驚き、なるほど!」「創造力を刺激された」など、でした。今回の活動を通して、参加者より、「楽しかった」「発想が広がった」という意見が多くでました。看図アプローチを通じて、協同することで思考を広げる面白さを実感でき、最後まで充実した時間となりました。

(文責：織田千賀子)

連絡先：全国看図アプローチ研究会事務局 (kanzu.approach.office@gmail.com)

◇「ふじかんW企画ワークショップ

」が開催されました。

「ふじかん」は「藤田医科大学看図アプローチ研究会」の略称です。代表は織田千賀子先生、事務局長は朝居朋子先生です。

第1企画 (3月29日)「看図アプローチで『ととのう』学びの아트モスフィア」

第2企画 (3月30日)「看図アプローチで学ぶ!協同学習の体験的理解」

この企画に地元愛知・岐阜はもとより北海道・千葉・東京・和歌山・広島・山口の皆さんが参加されました。

29日は全国看図アプローチ研究会会長鹿内信善先生が中心となりワークショップが行われました。アイスブレイクには、研究会専属アートスタッフ石田ゆき制作の新作「きゅうちゃん」イラストが活用されました。また今回のふじかんでは「新作ビジュアルテキストを」とのリクエストがあり、「きゅうちゃん・のんちゃん」「焼き鮭定食」「3組の手」等、多様な読み解きを誘うビジュアルテキストが多数用意されました。

ワークショップでは「なぜ?」発問に頼らない発問の仕方について考察する場面がたくさんありまし



JASCE

た。教師はつい「なぜ？」と問いたくなります。しかし「なぜ？」を連発されることによって学習者は「主体的学び」からどんどん遠ざかっていきます。「なぜ？」と問わなくても“なぜ”を考えてしまう」「学習者から自然に“なぜなら”が出てくる」。そんな発問のつくり方を、実際に体験しながら学んでいきました。

今回のワークショップには名城大学から学生さん2名・職員さん1名も参加されました。学生さんたち(当日参加できなかった1名を含む)は外部企業様との合同企画で独自に絵図を制作。看図アプローチの手法を取り入れ、社会を巻き込んだ壮大なプロジェクトに挑戦しています。その実践の報告もなされました。

午後のプログラムは「実践の書籍化に向けて皆が著者になるための出版会議」と題して進行していきました。今回の研修会に参加された先生方の看図アプローチ実践をまとめ、1冊の本にしようという提案がなされました。名城大学の皆さんの取り組みは出版企画を進めていく上での大きなヒントとなりました。学生さん2名のプレゼンに、会場からは大きな拍手がおくられました。プレゼン終了直後だけではなく翌



大好評だった名城大学学生さんによるプレゼン

日までも、ワークショップに参加した先生方の中で繰り返し話題となり、感心の声が続えませんでした。看図アプローチを「未来を守る力」にした有意義な社会貢献活動に取り組んでいる、名城大学学生前田クリスチャン瑞貴さん・鷲見(すみ)章伍さん・青山恭子さん、ならびにその活動をサポートしていただいている名城大学社会連携センター職員白川陽一さんに感謝申し上げます。

30日は藤田医科大学の織田千賀子先生が中心となって協同学習に関するワークショップが行われました。協同学習の理念や手法について、看図アプローチを活用した学びが展開されました。協同学習を体系的に理解し且つ看図アプローチの良さを体験できる素晴らしいワークショップになりました。また、同じ

く藤田医科大学の朝居朋子先生による「日本国憲法」の模擬授業も行われました。法律に関する授業に対して、堅苦しさ・難しさ・学ぶことへのハードルを抱く人は少なくありません。しかし朝居先生はそれを感じさせず、テンポよく、且つ心地よい思考を促す授業をされました。朝居先生の授業は、看図アプローチを取り入れた授業をつくっていく上での貴重なヒントを提供してくれました。

年度末という慌ただしい時期に全国各地からお越しくございました参加者の皆様に深く感謝申し上げます。いつもながら「おもてなしのこころ」溢れる研究会にしていだきました「ふじかん」の皆様にもお礼申し上げます。

(文責：全国看図アプローチ研究会専属アートスタッフ・事務局長石田ゆき)

連絡先：全国看図アプローチ研究会事務局 (kanzu.approach.office@gmail.com)

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会
◇第56回「協同学習を用いた看護教育研究会」を、1月25日(土) 13時30分～17時30分、グランフロント大阪アクティブスタジオで開催し、24名の方が参加されました。

テーマは「授業の構造化を考える」で、事前に参考文献として、①エリザベス＝バークレイ/パトリシア＝クロス/クレア＝メジャー著「協同学習の技法」、②安永悟他著「アクティブラーニングの技法・授業デザイン」、③安永悟著「LTD話し合い学習法」を紹介しました。参加者には事前準備として、授業を構



JASCE

造化する上で①工夫していること、②解決したいことを付箋に書いて持参していただきました。

アイスブレイクの後、今回の企画担当の荒巻富美委員が、授業の構造化における3つの視点、「意図的な計画」「公平な取り組み」「意味ある学習」を理解するためのミニレクチャー「協同学習による授業の組み立て」を行いました。次に堀川真知子委員が、「3つの視点を取り入れた授業の構造化の実践例」として、助産学概論の授業について実践報告しました。ミニレクチャーと実践報告に対する質疑応答を行った後、授業を構造化する際の①工夫点、②改善点を共有しアイデアを得るためにグループディスカッションを行い、その内容を特派員によって共有し、最後に全体で質疑応答を行いました。

参加者へのアンケートの結果では、授業の構造化の重要性について「構造化についてはもっと深く、もっと視点を意識して組み立てる必要があることが分かった」、「参加者との意見交換で刺激を受け自身の授業実践を分析する視点が得られた」などの意見が寄せられました。一方、「語り足りなかった」「特派員の時間がもっとほしかった」などの要望もありました。今後も、より良い教育実践に活かせる企画・運営に努めていきます。

(文責：堀川真知子・荒巻富美)

◇第57回「協同学習を用いた看護教育研究会」を、3月22日(土)13時30分～17時30分、グランフロント大阪アクティブスタジオで開催し、17名の方が参加されました。

テーマは、「協同学習を用いた教育実践のブラッシュアップ」で、自



己の教育実践をブラッシュアップして今後の実践につなげることを目的に企画しました。アイスブレイクの後、今回の企画担当のト部紘子委員が話題提供として、「ジグソー2を用いた基礎看護学演習の実践とブラッシュアップの現状」の表題で、基礎看護技術演習の構造化、実践における工夫、実践から見えたブラッシュアップへの課題などについて発表しました。

その後、自己の教育実践におけるブラッシュアップの現状と課題を整理するために、参加者が①ブラッシュアップで工夫していること、②ブラッシュアップを困難にさせている要因についてグループディスカッションを行い共有しました。更に自己の教育実践をブラッシュアップするためのヒントを掴むことができるために、各グループで各自の教育実践でブラッシュアップしたい内容について発表し合い、互いにアイデアを出し合う時間を設けました。最後の全体共有では、話題提供したト部委員の授業実践について、ブラッシュアップ案として具体的なアイデアが出され、特に単元における学習項目の精選、同僚教員との協同の必要性やその際の工夫などについて意見が交わされました。

参加者へのアンケートの結果では、「理論ある教育実践は強みであることを自覚して、諦めずに準備し

て伝えていくこと」、「新年度は新たなトライを行う決心が改めてついた」、「ブラッシュアップするには教育機関の教育・科目の目的と目標を軸に見直しをすること、上司やチームの教員との検討が必要で有益であることを確認できた」、「分野の上司が取り組んできた従来の方法に従い繰り返すだけでなく、新たな教育の発想(協同学習によるブラッシュアップ)を自信と勇気で働きかけていくことが学生のために大切だと再認識した」など多くの声が寄せられました。

(文責：ト部紘子)



◇次回の第58回の研究会は、5月24日(土)13時30分～17時30分、グランフロント大阪アクティブスタジオでの対面開催を予定しています。テーマは「グループ活動と協同」です。企画担当は緒方巧代表で、創価大学副学長の関田一彦先生をお招きします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

連絡先：研究会代表 緒方巧 (t-ogata@baika.ac.jp)

(中四国地域) 協同学習研究会(岡山)

◇会場の「教師教育開発センター東山ランチ」が附中改修工事に伴い使用できなくなるため、今年度の協同学習研究会(岡山)は完全オンラ

JASCE

インによる勉強会とし、下記の日程で開催します。いずれも土曜日の10時～12時です。

5月24日、7月26日、10月18日、12月20日、2026年2月28日

勉強会では、ジョンソン,D.W. & ジョンソン,R.T.著、石田裕久訳(2016)『協同学習を支えるアセスメント評価』(日本協同教育学会)をテキストとし、毎回1～2章分を目処に進めます。テキストを持っていることが参加条件です。私がテキストを講釈するのではなく、皆さんとともに読み解きながら、協同学習の実践を深めていくフラットな勉強会にしたいと考えております。

テキストを未入手の方はAmazonでの購入が便利です(一時的に「在庫なし」の表示になる場合がありますが、速やかに補充されます。高額な古書を購入する必要はありません)。

画面越しですが、皆様とお目にかかれることを楽しみにしております。参加希望の方は下記のURL「参加申込フォーム」よりお申し込みください。後日、ZoomのURLをお届けします。

<https://forms.gle/cGsnuSu7NfjwXK85A>

連絡先: 高旗浩志(岡山大学教師教育開発センター takahata@okayama-u.ac.jp)

(九州地域)

協同教育研究会

◇第61回「協同教育研究会」

日時: 3月1日(土) 13:30～17:10
会場: 久留米大学御井本館3階13BC教室

テーマ: 「学び合い苦手学生」

参加者: 研究会58名、情報交換



会28名

本研究会では、いわゆる「学び合い苦手学生」の視点から協同による教育指導のあり方について数年前より検討してきました。とくに協同的な学び合いに強い拒否感を示す学生をクローズアップし、その拒否感の形成過程や克服過程を検討してきました。そのなかで「哲学対話」に出会いました。この「哲学対話」の観点から仲間との学び合いや、教師による指導のあり方を問い直すことで、学び合いに対する苦手意識や拒否感を手放し、仲間と学び合えるようになるヒントが潜んでいるという期待をもっています。その可能性を参加者と共有することを今回の目的としました。

今回の研究会では、「哲学対話」に造詣が深く、実践経験も豊富な馬場智一先生(長野県立大学 グローバルマネジメント学部 教授)をお招きし、ワークショップを開催しました。

ワークショップでは、まず哲学対話の歴史、実践形態、理論についての解説をうかがいました。哲学対話では身体的・心理的・知的安全性を確保すること、普段の授業や学校生活の中で、経験や感情の言語化とそれを互いに聞き合うこと、日常の動線に対話的な活動(言葉や論理に関わる簡単なゲーム)を埋め込むこと

が大切であることを学びました。

解説に続いて簡単なゲームを何種類か体験しました。そこでは、グループごとに問いを出し、哲学対話に向いている問いを選び、一定のルールやコツに基づきグループごと哲学対話を行いました。最後に、ワークと対話を振り返り、今回体験したことを、自分の現場でどう活かせるか話し合いました。

連絡先: 協同教育研究所「結風」(office@yasunaga.me)

(沖縄地域)

協同学習を用いた看護教育研究会 in Okinawa

◇発足から3回目となる「協同学習を用いた看護教育研究会 in Okinawa」(以下研究会とする)を2月8日(土)13:00より開催しました。参加者は34名(県外参加者2名含)でした。その内訳は、看護教育機関(大学を含む)25名、実習施設5名、福祉施設(こども園)1名、看護系雑誌編集室1名、沖縄県病院事業局総務企画課(離島医療支援看護師)1名、沖縄県助産師会1名となっています。

テーマは「教育の質って?—協同学習の理論を通して考えてみよう—」とし、講師に中京大学名誉教授 杉江修治先生をお招きしました。内

JASCE

容は、1. 協同学習の基本として、これまでの授業観(指導観、学力観・学生観・集団観)からの転換と教師の役割、協同学習の理論について、2. 授業づくりの工夫として、学習原理から考える協同学習の進め方—3つのポイント—をご講演いただきました。その後、講演内容から、受講者は何を気づいたのか、気づいたことと受講者自身の今後の教育活動及び組織活動にどのように活かすのか等をワークショップ：スクランブル活動を通して共有しました。

今回の研究会も様々な組織や立場の方たちの参加があり、スクランブル活動の中での意見交換は「モチベーションアップになる時間がもてた、ペアになった方と思いを共有できた、具体的授業展開を今後の研究会のテーマにして継続をお願いしたい」などの意見があり、有意義であったと考えます。「協同学習の理論を通して教育の質を考える」という今回のテーマは、協同学習の基本

であり、参加者全員に共通することだと考えます。既に協同学習を用いて授業展開を行っている人、これから始めようとしている人など、参加者のバックグラウンドは様々ですが、協同学習の基本に立つことは共通していると考えます。つまり、既に協同学習に取り組んでいる人の実践からの振り返りは、これから取り組もうとしている人の取り組みへの方向性を示すことになると考えました。受講後のアンケートから、「モヤモヤとしながら実践していた、どうしてこちら(教員)の意図が伝わらないのか、自身の実践に何が足りないのか」等、実践活動において逡巡の日々を過ごしている様子が見え、うかがえました。

受講後アンケートの一部をご紹介します。

1. 協同学習の本質に触れた 2. 授業の振り返りと授業改善の方向性が明確になった 3. 研修に参加した仲間と積極的に交流ができ、学



びの具体化につながった 4. 活用できる教育技法のイメージができた(・学びの見直し方式・学習マップ・学びの仕掛けづくり・学びに向かう課題を明確に示す必要性和学生の主体性との関連性等)です。

なお、今回の研究会の実施にあたっては、協同教育学会地区活動に係る支援を頂きました。心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

連絡先：協同学習を用いた看護教育研究会 in Okinawa代表 浦添看護学校・学監 知念榮子(chinen_e@sho-oh.ac.jp)

出版情報

- * 看図アプローチ関連書籍 2冊同時刊行しました。
- * いずれも電子書籍です。ご購入は「TRIADE」または「トリアーデ書房」で検索ください。(https://triae-book.com/) また、電子書籍の購入に手間取る方は「購入の手順書」(https://x.gd/16cw5)をご覧ください。

見方・考え方を育てる授業デザイン

—看図アプローチの理論と実践—



本書では教室で活用可能な「見ること」の情報処理モデルを提案しています。先生方の日々の授業づくりに応用できる看図アプローチ授業モデルもたくさん紹介しています。Chat GPTとの組み合わせ方・VR(バーチャルリアリティ)教材の活用方法など「ICT活用の最前線で活躍する」看図アプローチについても学べます。鹿内信善・石田ゆき 編著、共著者：溝上広樹・加藤治実・織田千賀子・森寛・田中伸子・菊原美緒、TRIADE(トリアーデ)。

看図アプローチのための教材デザイン

—「見ること」でととのう学びのアトモスフィア—



本書は『見方・考え方を育てる授業デザイン—看図アプローチの理論と実践—』の姉妹本です。筆者が開発してきた「きゅうちゃん」300種類をはじめ、本書で紹介する絵図、ワークシート、スライドのデータをダウンロードいただけます。「アトモスフィア」は「雰囲気や空気」。授業環境がより良く「ととのう」アイデアをお届けします。石田ゆき 著、TRIADE(トリアーデ)。